

丹沢：葛葉川本谷

- ◆日程 2020年6月7日(日)
- ◆メンバー L：ST、SD、OD、MD、OM、OT、IT
- ◆天候 晴れ

政府が発した緊急事態宣言を受けて、例会山行も長期にわたって「自粛」がされていたところ、同宣言がようやく解除。そろりで行われたのが、この葛葉川の沢登りである。

ヘルメットをかぶり、マスクをして、ちょっとどれが誰だかわからない。相当使い込んだ「ハンマー」様の物を腰にぶら下げた者もいて、なにかのきっかけがあれば、たちまち暴徒化しそうである。沢の取りつきにあたる葛葉の泉には、あやしい風貌の参加者が集合した。これも「新しい生活様式」なのだろうか。これは、きっと、香港では許されない。

入渓すると、山も沢も、コロナ以前からの変わらない山であり沢である。「国破れて山河在り」の趣きだ。沢の水が冷たく、染み入るような新鮮さだ。みんな、「ようやく水面から顔が出て息が吸えた」というような晴れ晴れした表情になった。しかし、念のため、パーティを2つに分けた上、心持ち個人の間隔をあけることとした。「ソーシャル・ディスタンス」の作法をわきまえた行動だ。



久々の沢歩きはどうも勝手がうまくいかない。バランスをとるのが難しく、手をつく回数が多くなった。それでも水線にどんどん入って、沢の喜びを噛み締めた。ああ楽しいな、と心から思った。ところでマスクが濡れてしまうと、呼吸ができなくなることが分かった。こうなると着けていられない。やむなくはずす。

ザイルを出して遊びながら進む。私は率先してまき道を行って、上からザイルを垂らして確保する役を買って出た。SDさんやITさんが挑戦的なルートを苦勞して登るが、それを見て、みんなはまき道を選ぶことが多かった。久々の沢であるし、慎重を期して実力の70%にセーブして安全を優先するのは悪くない選択だ。万が一にも事故のないように気を配った。

大平橋(林道との交点)に着き、さらに行くか下るかを話し合うも、時間の余裕があるので、即決でさらに行くこととなる。少し沢を進んで、左の詰めに入る。ちょっとトラバースが長すぎかなと思う詰め方だったが、最後まで踏み跡がはっきりしていて、上がるのに楽をした。

登山道を進み、三ノ塔で武装解除。SDさん、ODさん、MDさんはヒルに食われていたが、他は無傷。食われる人はいつも決まっているので、何が違うのだろうかと考えた。一説によると酒を飲まない人が食われやすいというが、あやしい。されど、BCGではあるまい。

下山では膝が笑う。ひどい筋肉痛が来ることは確実だ。筋肉痛は翌日には来ない。潜伏期間が2、3日ある。私はこれを「恐怖の三日目」と呼んでいる。

登山は遭難もあるし、衛生的でもない。傍目には「愚かな行為」かもしれない。でも山には日常生活を補う何かがある。山に登る自由を保持することはわれわれの責務だと思う。そのためには、コロナによる新世界秩序と折り合いをつける必要がある。コロナに対し無防備であってはならないが、これがため何もかも諦めて萎縮するのは相当ではないだろう。(記：OK)

登山は遭難もあるし、衛生的でもない。傍目には「愚かな行為」かもしれない。でも山には日常生活を補う何かがある。山に登る自由を保持することはわれわれの責務だと思う。そのためには、コロナによる新世界秩序と折り合いをつける必要がある。コロナに対し無防備であってはならないが、これがため何もかも諦めて萎縮するのは相当ではないだろう。(記：OK)

CT：葛葉の泉 10:00 - 登山道 13:50 - 三ノ塔 14:00 - 葛葉の泉 16:20